

第24回書き出し祭り 第一会場 あらすじ一覧

24-1-1.

五国を統べる夜の王

大陸に存在する五国のひとつ、タルグ国の外れ。

隠れ棲む魔女に育てられた少年ザナ＝ヴィーヌは、十三歳の誕生日の翌日、いきなり独り立ちすることになった。

まだ力は弱い、母である魔女の魔法をすべて受け継いだ小さな魔法使いだ。

母の消息が断たれると、馴れ馴れしくも可愛らしい夢魔が現れザナをご主人様と呼ぶ。ザナには記憶がなかったが、遠い過去の契約が有効らしい。

「ご主人様のためなら、わたし、なんでもしますう。欲しいもの、仰ってくださいいい」

ザナは、冗談めかし夢魔へと望みを告げた。

大陸の五国各地に英雄が現れ、覇権をめぐる戦乱の気配が渦巻く。時代は動きはじめている。

自由を得たザナは、夢魔を連れ長い旅路へと。母の残した謎を追いながら、使い魔や配下の数を増やし成長。英雄たちや各地の統治者たちを籠絡する。

夜を継ぎダークな魔法を操るザナは、覇権争いの真っ只中へと突き進むこととなる。

24-1-2.

首なし奏者と女神の音階

女神に仕える巫女だったドルチェは、たった一つの失敗から女神によって楽譜と首を取り上げられてしまった。

女神を祀る古代神殿で楽譜と首を探すため、ドルチェは側仕えのフラットとともに仲間集めをすることになる。

～打倒、音律の女神！ 私の首を返しなさい！～

「まって、危ないから！ アコーディオン持ったまま走らないで……！」

「じゃまでちゅ、赤犬！」

「お前な、口悪いって」

アコーディオンで奏でるドルチェの音階言語を理解する騎士ルバートと、フラットにちょっかいばかりかける騎士スケルツォ。

仲間になった騎士たちとともに、ドルチェはいざ、古代神殿の攻略へ！

だけど。

～音律の女神はどうして私を巫女にしたの……！～

神殿に遺されていたのは、世界を滅ぼす破滅の楽譜で——？

自分の首と女神の真実を見つけるため、ドルチェは今日もアコーディオンを響かせる。

24-1-3.

箱庭のジェミニ・ドール

——長寿化に伴う地球規模の人口爆発。

狭苦しい地球の中で、人類はあまりに数を増やしすぎていた。土地や資源をやりくりしてどうにか生き延びているが、それも限界が近づいている。

二十歳の|佐倉《さくら》|玲斗《れいと》は、そんな世界に暮らす一般人だった。

『箱庭への移住者は、税金が大幅に免除されます』

政府の発表に、人々は沸き立った。

移住者は生命維持装置に肉体を預け、小さな人形と感覚を同期しながら、ゲーム世界を再現した〈箱庭〉で暮らすことになる。元からゲームが好きな玲斗に、移住をためらう理由はなかった。

しかし、あれから五年。玲斗は心が擦り切れて、もはやゲームを楽しめなくなっていた。

そんな中、一人の少女との出会いが、玲斗の人生を変える。怪しげな陰謀論は、思いもよらぬ方向に燃え広がり、やがて人類全体を巻き込む大騒動へと発展していった——

24-1-4.

絶世の天才退魔令嬢は禍ツ神に愛を囁く

神代にまで遡る起源を持つ退魔の名家《|空木宮《うつぎのみや》》家。

次期当主に内定している天才令嬢《|珠媛《すずえ》》は、遥か昔に祖先が封じ、今日まで代々その封印を守ってきた存在、美しき青年の姿をした禍ツ神《セイ》を欲した。

珠媛は誰よりも美しくも気まぐれで身勝手、理不尽でありながら、圧倒的な力を持ち、誰一人逆らうことができない。そんな彼女は、大胆に傲慢に愛しの禍ツ神へと愛を囁く。

「アナタはただ私だけを見て、私と与える愛を享受すればいいの。それ以外は何も必要ないわ」
「ふざけるな断る」

「ふふ、抵抗するだけ無駄なのに可愛らしいこと……」

いまだ、秘めた願いを胸へ隠したままに——

24-1-5.

君と出会った夏～初めて、こんなに人を知りたいと思った～

大学の長い夏休み。

暇をもて余していた川嶋慎吾(かわしま しんご)はふとした好奇心で侵入したリフレ店の跡地で、
高校生の少女・狭川紗希(さがわ さき)と出会う。

彼女との出会いをきっかけに、慎吾の毎日には確かな“色”が付き始めて……。

ひと夏の出会いと、別れの話。

彼が彼女を知っていく、物語。

24-1-6.

ぼっちエルフは転生者に狙われてる

ぼっち。

少女は森でぼっちであった。

親はなく、兄弟も居ない。

友も居なければ、語り合う相手も居ない。

少女は悲しいまでにぼっちであった。

しかし、そんな少女にある転機が訪れる。

それは……

空が晴れていたとか。

風が心地よかったとか。

湖が綺麗だったとか。

まあ色々理由はあるのだが、少女は森を出る決意をしたのだ、
どこかにいる、お友達を求めて。

少女は森から旅立つ。

大いなる勇気と、輝く様な希望を胸に。

「や、やや、やっぱり……やめようかなあ」

24-1-7.

魔狼ヴァナルガンド殺人事件

——満月の夜に出歩くな、狼男に食われるぞ。

とある住宅街で、満月の夜に続く連続猟奇殺人事件。犯人は人狼だとまことしやかに囁かれていた。真実を突き止めるべく動いていた「私」こと月島夕理は、第四の殺人現場に居合わせる。襲ってきた人狼を撃退する夕理だったが、相手の正体はなんとクラスメイトで……。なお続く陰惨な事件。犯人こと人狼「ヴァナルガンド」は誰なのか？

24-1-8.

妹がおにいの恋愛事情に口を出すのは当たり前のことなんだから！

榎田 修哉は転校生であることを除けば、普通の男子高校生……というわけでもなかった
クラスメイトが若干引くほどのシスコンだったり、妹から暑苦しいと言われるくらいの長袖好きだったり

とはいえ、少なくとも本人としては普通の男子高校生であると認識していた

だが、修哉の転校についての話題も落ち着いてきた頃合い。突然に状況が変わる
なぜか三大美少女と呼ばれる女子たちから、謎のアプローチを受けるようになる
理由を聞けば、各々修哉との馴れ初めを語るのだが――

「……記憶に無え」

はたして修哉が忘れていただけなのか、それとも――

嘘か真か、三大美少女と修哉によるドタバタラブコメが、ここに始ま……らないッ！

「妹がおにいの恋愛事情に口を出すのは当たり前のことなんだから！」

――ひとつ、訂正をしよう

これは、榎田 美鈴という

妹の、妹による、兄のための

ハチャメチャ恋愛心理戦であるッ！

24-1-9.

呪い呪われ回る矢印

ある夜、友達のギャルから電話が掛かってきた。
『あたし、呪われてんだけど～！』

ひそかにオカルトを愛好していた私は、その呪いを解く方法を探すことになる。
友達に呪いを掛けられた者、呪いを生み出した者、そして、私。
呪いの矢印は、今どこを向いているの？

24-1-10.

瑠璃色の銃声◆元子爵令嬢の浪漫奇譚

大正六年。第一世界大戦下の日本。モダンな服装が好きで、銃声に色を感じ、銃に心躍る一風変わった一面を持つお転婆な元子爵令嬢、|納富《なんど》|瑠唯子《るいこ》。男に紛れ郵便遞送員を勤める傍ら、難事件を解決する私立探偵でもあった。いつの日か、罠に嵌められて爵位を失い、失意のうちに自死してしまった父の無念を晴らす、そう心に決めて彼女は依頼を引き受ける。

新たな依頼は、戦没者遺族への弔慰金を狙う連続強盗殺人事件。金を奪った後、女や子どもまで銃殺する非道な犯行に目撃情報はなく、警察は立ち往生。

「警察は組織犯罪を疑っているそうで」

依頼内容を彼女に伝え、そう締めくくった元執事に彼女は言った。

「相変わらず、警察はズレてますわね」

「お嬢様には、もう目星が？」

「そこまでは。でも、|絲《いと》|口はありましてよ」

愛銃を手にも、今日も闇に潜む悪意を瑠璃色に染める。

——この銃声。堪りませんわ。

24-1-11.

星咲き誇る園を翔ぶ

人間の帝国エデルキアと魔族との戦争は、魔族の全滅により終結したかに見えた。しかし、賞金稼ぎルーは最後の魔族である子どもを秘密裏に自分の奴隷として育てていた。

時は流れ十年後。ルーはすっかり彼に懐いた魔族の子と賞金稼ぎを続けていた。二人は祭りのために百年ぶりに目覚めるというドラゴンを見に大都市ウルヤに向かう。だがドラゴンは友であった魔族が全滅させられたと聞き大激怒し「帝国に災いをもたらす」と言い残して飛び去ってしまう。

ルーと魔族の子、戦闘狂の皇女とその護衛、へたれな吟遊詩人はドラゴン探索のために手を組む。しかしドラゴンの首を討ち取らんと息巻く皇女と平和的な解決を探るルー、余計なことしか言わない吟遊詩人の足並みはなかなか揃わない。さらに魔族の子は秘密の行動を取り始め——

。果たして彼らは帝国を危機から救うことができるのか？

24-1-12.

伯爵夫人の赤の食卓

呪われた真紅の髪を持つアロイジアは、古城に住まう伯爵夫人《ダーメ・グレーフィン》に仕えている。赤い色を | 食《・》 | ベ《・》ないと生きていけない、という呪いのような奇病、《赤餓症《フンガーロート》》を患う夫人にとって、アロイジアの髪は良い | お《・》 | や《・》 | つ《・》なのだ。

莓に薔薇、柘榴《ザクロ》に林檎。

気難しい貴婦人のもと、四季折々の赤に染まる城に集うのは、頑固で忠実な老料理人、不老不死を求める鴉の錬金術師、勘違い吟遊騎士。

時に騒がしく、時に倦怠感漂う日々の果てに、アロイジアの呪いは解けるだろうか。伯爵夫人の病は癒えるだろうか。

24-1-13.

人殺し令嬢は華のように笑った

犠牲者、延べ九十人以上。

空前絶後の大量殺人事件の容疑者は、幸せな未来を約束されたはずの“清華令嬢”だった――。

かつて実家の工場を財閥企業に潰され、恨みを胸に弁護士を目指す司法修習生の日葵(ひまり)。弁護士修習中のある日、同級生を殺戮した財閥令嬢・瑞喜(みずき)の刑事裁判に立ち会った彼女は、被害者遺族の振り回す刃物から瑞喜を守ろうとして刺されてしまう。

目が覚めると、日葵の意識は一年前の瑞喜に乗り移っていた。

そこにあったのは、まだ事件が起こる前、ただ平和だった学生生活の日々。

誰よりも恵まれた環境にありながら、なぜ令嬢は殺人鬼に成り果てたのか。惨劇の裏で彼女は誰を想い、何に胸を痛めたのか。疑問を抱きながら夢と現実を行き来するうちに、日葵の信じた正義は足元から揺らいでゆく。

「私はただ、正しい人の味方でありたかった。

――本当に正しかったのは、いったい誰ですか？」

24-1-14.

ドワーフの最強拳士、エルフの少女に転生して見た目も最強になる！

「互いに転生し、今度こそ決着をつけよう」

不遇の最期を遂げた『ドワーフの拳士ガラム』は、宿敵である『剣魔グリムザール』の秘術を受け入れ転生した。しかし転生先は『エルフの少女ディアナ』で……？

「ワシの鍛え上げられた上腕二頭筋は!? 苦味走ったいい男ぶりは戻ってこないのか!? おのれ騙したなグリムザールううーっ！」

前世とはまったく異なる脆弱な肉体と、傾国レベルの可愛さと。

相反する要素に悩まされつつも、ガラムは修行を続ける。

足りない『気』を『魔力』で補い、脆い『肉体』を『技術』で補う。

すべては宿敵との決着のためなのだが、可愛さのあまり周囲が放っておいてくれず……。

「次はミニスカドレスね！ 大丈夫、絶対似合うよ！ ディアナちゃん最強に可愛いから！」

「うるさいうるさい！ ワシの求める最強はそうゆーのじゃないのだあー！」

ドワーフ→エルフのTS転生バトルコメディの、始まり始まり～。

24-1-15.

その聖女、凶暴につき

「聖女リリアンヌよ。神聖なる審議の結果、貴女を聖都アドミラルより追放とする」

かつて聖殿に勤め、一生涯を瘴気の浄化に捧げると誓った聖女リリアンヌ。
宮廷の王侯貴族は彼女の存在を疎ましく思い、追放刑に処した。

だが彼らは知らなかった。
なぜ聖女を安置すべきかを。
なぜ信仰を絶やしてはならぬのかを。
そしてこの国の歴史を——かつて魔王アザゼルが世界を恐怖の底に陥れていた過去を。

一千年にも及ぶ《聖女》の記憶を受け継ぐリリアンヌは、魔王の存在を信じていた。
しかし人々にはそのことは、真偽不明のおとぎ話に過ぎなかったのだ。

ついに今世復活を果たした魔王。

宮廷の裏切り者が正体を明かす時、魔王を斃す可能性——勇者の血筋が絶滅の危機を迎える。はたしてリリアンヌは、未来の勇者ユリウスを救うことができるのか？ 絶体絶命の窮地の中、リリアンヌは剣を執る。

24-1-16.

天使よ、終末の鐘を鳴らせ —幻想の蒼空に白き羽根は散る—

フルダイブ型RPG「パラディソス・オンライン」。サービス開始以来11年を数えるロングヒットVRMMOで、秋坂一哉（あきさかかずや）はユーザーサポート要員を務めている。頭上に光輪、背に白翼を着けた美麗アバターで顕現するサポートスタッフは、プレイヤーから「天使」と呼ばれる畏怖の対象だ。たとえ、内実が薄給長時間労働の契約社員だとしても——

問い合わせやトラブル対応に日々奔走する一哉。だがある時、レベル1新規登録プレイヤーの集団に襲撃され、光輪と白翼を奪われる。
スタッフが持つ管理者特権＝無敵モードはなぜ破られたのか。
「天使」の象徴を奪ったのは何者か、狙いは何か。

「パラディソス・オンライン利用規約第9条5項『サービス妨害行為の禁止』および8項『犯罪行為の禁止』——運営権限に基づき、違反者をここに断罪する！」

一対の翼は、呼び起こす。
すべての仮想空間、さらには現実世界をも巻き込む戦乱を。

24-1-17.

桜の下の異世界トラブル

桜満開の商店街で、天見優子は高級ケーキを手に鼻歌気分。だが「全裸に注意」と警告された直後に全裸男にぶつかりケーキがぐちゃぐちゃに。
自称異世界勇者の彼を捕まえ、復讐を誓う優子。家に連れ帰るも友人の来訪でピンチ！
全裸勇者と女子大生の騒動が始まる。

24-1-18.

万理華ちゃんが帰ってこない

万理華ちゃんは今年で6歳。
よく笑う子で、左頬にできる笑窪が印象的。
ピンクの花柄のダウンがお気に入り、水色のスニーカーを履いては駆け回ってる。
おしゃべりが大好きで、人見知りせず、誰とでも仲良くできる女の子。

24-1-19.

社会の窓を閉めさせたいッ

気になるあの子は精神虚弱少年(スーパデリケートボーイ)。

一年に渡る攻防の末、ようやく登校してきた引きこもり少年・内海光瑠のチャックが全開!?

学級委員の宇津宮円は、頭脳をフル回転させる。
バレたら最後、一年間の努力はゼロに戻る。
失敗は許されない。円の内申点のために。
しかし内海には、特殊な事情があつて――。

「社会の窓を開けてないと、学校に来られない？」

なんだその特異体質は。

「そこの窓、閉めさせてくれない？」

「い、いいい嫌です！」

精神虚弱少年・内海光瑠と腹黒学級委員・宇津宮円の戦いは、新しいフェーズへと移行する。

「図太くなつたな内海、そこをどけ」

「だめです……これが僕の生きる意味なので」

「内海光瑠を連れ出すまで、私は絶対に諦めない!!」

「宇津宮さんが僕を選んでくれるまで諦めません!!」

二年目の攻防は、波乱の予感。

24-1-20.

タマ姫殿！

それは球だった。見たところステンレスの球のようだがここだけの話実はオリハルコンの球なのだ。因みに織葉(おりは)さんが離婚するとオリハリコンだねえ！似てるけどちょっと違うねえ！いやゴメン話を元に戻そう。この球を男女二人のFラン大学生が拾った。Fランって言ってもフリーサイズのランニングじゃないよ！えっ？話を進めろ？はいはい。二人は同じ大学の同じ学部に通う二年生で同じアパートの隣同士の部屋に住んでいる。それは全くの偶然だったんだけどなんだかんだでいつも一緒に行動している。えっ？二人の間に恋愛感情はあるのかって？おいおいおい！野暮は言いつこ無・し・だ・ぜ♥ヒュ〜ウ！お〜っと！そろそろ俺のトークに付き合うのにも疲れて来た頃かな？とにかくこれから始まるのは現代日本社会にファンタジックに高度な文明を持った奴らが攻め込んで来るのをなんとか防いでやろ〜じゃね〜か！っていう粗方ノリと勢いが主成分の物語だ！

24-1-21.

わんわんだンジョン！ 地球に現る！

ゲームのダンジョンが現実世界へ現れた。ダンジョンは異世界を滅ぼし、この世界へと辿り着いたらしい。そしてそのダンジョンのマスターは私である。趣味全開、わんこ系しかいないわんわんだンジョン！ 現代地球を守るよりも自分のデザインしたモンスターを守りたいと思ってしまう私は色々な意味で生き残る事ができるのか？

24-1-22.

猫も杓子もV妖封演舞

このごろ旺蓋町には妖怪が多い。
そんなことも知らずにくゝ扇《おうぎ》かなめは亡くなった祖父宅その地へと逃げるように越してきた。
ところが猫屋敷と化したそこには既に住人がいて、「待ってたぜ、家主」と言う。
彼は扇家に伝わるある呪物を探していた。見知らぬ住人に迫られ逃げるかなめを妖怪が襲う。そのとき“お守り”が光って――

負け犬女子高生は化け猫男子高生に出会って祓って妖のてっぺん★目指す。

「ひれ伏せ魑魅魍魎共！」

24-1-23.

ドウ・カの函

悪魔イヤッヘムは音を食べて生きている。食べられた音は静寂に置き換わり、多少の混乱を引き起こすこともあるが、僅かばかりも悪魔は気にかけることはない。

よい音は、彼にとって蜜よりも甘く何よりも貴重なもので、ひいてはつまり、そこに住む他の動物の都合など、いちいち考えようとさえ思わなかったのだ。

ある日、彼の前に別の悪魔が現れる。この悪魔も音を食べる種で、その悪魔は【ドウ・カの函】を使って悪魔の力を人間に与え、素材を調理するように声をつくることを良しとしていた。

悪魔は言った。

人間の中でも特に貧しく何も持たない者に手を加えて極上の音を出してやろう、と。ありのままの音こそ最上とするイヤッヘムはこれに反駁し、【ドウ・カの函】を壊すと誓った。

それが悪魔に破滅をもたらすと知らずに。

24-1-24.

男の娘だって恋がしたい！ ～異世界アイドル創始録～

「みんなー！ 今日もミラクルハッピーでゴーだよ。まずはボクのデビュー曲『男の娘アイドル☆極めます』から歌います。ノッて行ってね！」

聖女として召喚された僕は、異世界アイドルとして活躍する。魔王も僕の虜になり、観客と一緒にノリノリだ。

「我は魔王だ。そして、お主を敬愛する者だ。お主がいる限り互いの国の平和のために尽くそう。だが、もし可能ならば――」

魔王が真の正体を現した。それはいつもの姿とは似ても似つかず――。

「私、実はこんな見た目なんです！ 威厳がないから魔王っぽくしていたけど、ほんとは生身の手で握手がしたかったの。もう一度っ、握手してください！」

僕と彼女の物語はこうして始まった。

仲は次第に深まり、

「これからもずっと、平和のために私に頑張ってもらいたいですよねっ。それならあのお……こ、子づくりしませんか！」

これは、魔王と聖女兼男の娘アイドルの恋の話である。

24-1-25.

可愛い可愛い聖女は死にました。二度目の人生は復讐に捧げますので、お覚悟を。

「可愛い可愛い私のリリー」

そう言われ、父に溺愛されながら育った伯爵令嬢リリー・オブ・ザヴァリー。
彼女は聖女であり、王太子の婚約者となり——そして戦争に巻き込まれ、王家の贄のような形で処刑されることになった。

純真無垢な少女は死んだ。女神に蘇らせられ、幼少期から二度目の人生を始めたリリーは決意する。

己を裏切った父に、救われておきながら手を差し伸べなかった貴族たちに、犠牲になると知りながら黙っていた元婚約者に、そして国王に復讐することを——。